

デジタルトランスフォーメーション (DX) 戦略

データとデジタル技術の活用によるさらなる生産性向上と新たな価値創造

堀江化工株式会社

1. 経営ビジョン

1941年の創業以来、当社は島根県江津市を拠点に地域の豊かな天然資源を大切に活用し、粉体加工を通じて多様な産業のものづくりを支えてまいりました。私たちを取り巻く環境は時に大きく変化してきましたが、特にここ数年はこれまでとは比較にならない速度で変化しています。とりわけ、私たちが根を下ろす島根県石見地方は、過疎化・高齢化・人口減少の先進地という厳しい現実と直面しています。しかし、私たちは「それでもこの地でものづくりを続け、地域と共に生きていく」と決意しています。そのための重要な手段としてDXを活用します。

私たちは、DXをこれからのものづくりを支える基礎インフラとして経営戦略の中に位置づけます。私たちが目指すのは、長年培ってきた粉体加工技術をデジタルの力でさらに飛躍させることです。これまで個人の頭の中にあった加工ノウハウや品質データをデジタル空間に蓄積・共有し、より効率的で再現性のある仕事の進め方を整えてまいります。これにより、データを基に状況を把握し、習熟度によらず自らが考えて活躍できる環境をつくります。個人の経験や記憶をデータとデジタル技術で融合させ、人に頼る働き方から仕組みとデータで支える組織へと移行することでこの地域での持続可能性を模索します。

これまで培ってきた技術力とDXの相乗効果で、企業理念である『地域の人材と資源を大切にし、地域社会の発展に貢献する』ためにこれからも努力してまいります。

2. DX戦略

経営ビジョンで掲げた「人に頼る働き方から仕組みとデータで支える組織への移行」を実現するため、以下の3つの柱でDXを推進します。



① 業務プロセスの デジタル化による仕組み化

クラウドツール（Google Workspaceやノーコードツール等）を用いて記録を一元化。現場への端末導入により、どこからでもリアルタイムに入力・閲覧できる仕組みを構築し、転記の手間を削減し再現性のあるプロセスを確立します。



② 「デジタルレシピ」の 構築と技術継承

個人の頭の中にあった粉体加工のノウハウをデータベース化。全社で共有・可視化し、経験の浅い従業員でもデータを基に状況を的確に把握し、自ら考えて行動できる環境を整え、人材育成を加速させます。



③ データ活用による 高付加価値化

蓄積したデータを活用し、生産工程における歩留の改善や無駄を極小化。過去のデータ分析からお客様の要望に最適な条件を迅速に導き出し、経験依存では到達できない高付加価値を提供します。

3. 推進体制およびデジタル人材の育成

【推進体制】

DX推進責任者

代表取締役（全体統括）

実行責任者

常務取締役（戦略の実行および進捗管理）

実務チーム

事務・研究開発・製造の各部門代表者で構成

【デジタル人材の育成】

外部からの採用に依存せず、既存社員を「データを用いて自ら業務改善できる人材」へと育成する方針をとります。

- **実務チームの育成**：外部専門家の協力を得ながら、中核となる実務チームを対象にDXへの理解を深め、推進手法を習得する研修を実施。
- **全社リテラシーの向上**：全社員に対するITリテラシー研修を実施し、デジタルへの抵抗感を払拭。
- **組織風土の醸成**：データに基づく業務改善が日常となる企業文化を定着させる。

4. 環境整備の具体的方策

現場の負担を最小限に抑えつつ、最新のデジタル技術を継続的に活用できるよう以下のITシステム・環境整備を進めます。



基盤の拡充

- 既存のGoogle Workspaceを最大限活用し、情報共有プラットフォームとして運用。
- 工場内でも安定してデータ通信・共有ができるセキュアなネットワーク環境を整備。



デバイスと入力補助

- 現場でも操作が容易なタブレット端末を配備。
- AI-OCR（文字認識）や音声入力、画像記録などの技術を積極的に検証・導入し、現場のデータ入力負荷を軽減。



セキュリティの徹底

- 「情報セキュリティ方針」の運用徹底。
- IPA「SECURITY ACTION（二つ星）」の宣言と要件の実行。
- クラウド利用時の厳密な権限管理や多要素認証を実施し、安全な体制を構築。

5. 戦略の達成状況に係る指標（KPI）

DXの定着とビジョンの実現度を客観的に測るため、以下の定量指標を設定し進捗を管理します。

（目標期限：2029年度末 / 基準：2026年度実績）



ITリテラシー研修
受講完了率

100%

全社的なデジタルへの抵抗感払拭と
基礎スキルの底上げ



デジタル化による
事務作業時間の削減

30% 削減

ペーパーレス化やAI-OCR導入による
入力・転記時間の削減



受託加工における
平均リードタイム

10% 短縮

デジタルレシピ活用による
受注から出荷までの工期短縮

6. DX推進ロードマップ

KPI達成に向け、3カ年計画で段階的に「基盤整備」から「データ活用」へとレベルアップを図ります。

デジタル化基盤の整備と ペーパーレス化

【環境整備・業務改善】

- ・セキュアなWi-Fi環境構築とタブレット配備
- ・記録類のクラウドツール移行

【人材・セキュリティ】

- ・全社ITリテラシー研修の実施

デジタルレシピの構築と データ蓄積

【業務改善・技術継承】

- ・AI-OCR、音声入力、画像記録等の技術導入
- ・加工ノウハウのデータベース化（デジタルレシピのプロトタイプ運用）

【人材】

- ・実務チームによる自発的な業務改善の定着

データ活用による 高付加価値化の実現

【高度利用・顧客価値】

- ・品質データを分析し、最適な加工条件を導出。
歩留まりの改善。
- ・過去データから新規要望へ迅速・最適な提案

【組織風土】

- ・全社的改善活動の定着（KPI目標達成）

7. 情報セキュリティ方針

【基本理念】

堀江化工株式会社は、取引先様からお預かりする情報、ならびに当社の技術をはじめとするあらゆる情報資産が極めて重要な経営資源であることを深く認識しています。私たちはこれらを様々な脅威から確実に保護し、取引先様や地域社会からの信頼に応え続けるため、本方針を定め情報セキュリティの維持・向上に努めます。

行動指針

1. 情報資産の適切な管理と保護

当社が保有するすべての情報資産について、不正アクセス、紛失、破壊、改ざん、漏洩などを防止するための適切な対策を講じます。

2. 情報セキュリティ体制の整備

情報セキュリティに関する責任者を配置し、情報資産の適切な管理・運用を行うための社内体制を整備します。

3. 法令および規範の順守

情報セキュリティおよび個人情報保護に関する法令、国が定める指針、その他の規範、ならびに取引先様と締結した契約上のセキュリティ要求事項を厳格に順守します。

行動指針

4. 啓発活動

本方針を全従業員に周知徹底し、情報セキュリティの重要性の認識ならびに情報資産の適切な取り扱いを徹底するため継続的な啓発活動を実施します。

5. 情報セキュリティトラブルへの対応

万が一、情報セキュリティに関する事故やトラブルが発生した、あるいはその予兆を検知した場合は、速やかに原因究明と被害の最小化に努め、再発防止のための是正措置を講じます。

6. 継続的な改善

社会情勢の変化や情報技術の進歩、新たな脅威の出現に対応するため、情報セキュリティの取り組みを定期的に見直し、社内体制および対策の継続的な改善を図ります。